

<p>中心静脈カテーテルの抜去</p>	<p>高カロリー輸液（栄養価の高い点滴）が必要な方や、手足の血管から点滴を行うことが難しいなどの理由で挿入されている、中心静脈カテーテル（首や足の付け根の太い血管から入っている点滴の管）を抜去する処置です。カテーテルを入れておく必要がなくなったり、挿入部の感染が疑われた際に、早期に抜去することで体を動かせる範囲が広がったり、感染を起こしたり悪化するリスクを軽減することができます。起こり得る不利益としてはカテーテル損傷による体内残存や血栓や塞栓症、出血など。</p>
<p>橈骨動脈ラインの確保</p>	<p>手首にある動脈に細い管を入れて、血圧の測定や採血を行うためのものです。主に長時間の手術や心臓カテーテル治療などの際に体の状態を正確に把握することができる利点があります（全ての手術や治療で行うものではありません）起こり得る不利益としては神経損傷や麻痺、血腫や出血など。</p>
<p>動脈血採血 （動脈からの直接採血）</p>	<p>手首や足の付け根にある動脈から採血を行います。血液中の酸素や二酸化炭素の量、体の酸性やアルカリ性のバランスなどを調べて最善で適切な治療に繋げることが目的です。起こり得る不利益としては神経損傷や麻痺、血腫や皮下出血など。</p>
<p>持続点滴中の高カロリー輸液量の調整</p>	<p>高カロリー輸液（栄養価の高い点滴）を必要とされている患者さんに対して、必要な栄養や水分、ビタミン、ミネラル（電解質等）を検討して輸液の変更や調整を行い、栄養状態の改善などを図ることを目的としています。起こり得る不利益としては肝機能や心機能の障害、血糖値異常など。</p>
<p>脱水症状に対する輸液による補正</p>	<p>食事がすすまない（食事量が少ない）、熱が出て大量に汗をかいている、下痢や嘔吐をしている、など様々な要因で脱水症状がある患者さんに対して、最適な点滴を選択して投与することで症状の改善（重症化の予防など）を図ります。起こり得る不利益としては心機能や肝機能障害、血糖値異常など。</p>
<p>インスリンの投与量の調整</p>	<p>血糖値（血液の中の糖分の数値）が高すぎたり低すぎたりしないように、血糖値を下げる薬（インスリン）の量を調整します。起こり得る不利益としては高血糖や低血糖などの血糖値異常など。</p>